

「第2回東京大学FSI債」年次報告書2023（インパクトレポート）

多様性の海へ：対話が創造する未来

東京大学FSI債の発行意義について

- 自立した能動的な経営体となり、東京大学の役割を拡張することで、社会から期待される「社会変革を駆動する」という役割を果たすためのリフォーム資金として活用
- 余裕金を毎年、少額ずつ投資するよりも、債券により大規模に資金調達した金額で先行投資することが、未来の東京大学の社会的価値の最大化につながる
- 同時に、市場との対話を通じた大学債の運用を通じて、社会が期待する長期の投資先に大学がなり、よりよい社会に向けた資金循環の創出を目指す

東京大学FSI債の概要

1. 特徴

- 世界初の大学によるソーシャルボンドに続く、2度目の発行
- 「東京大学FSI債は、社会変革を駆動する大学との理念の下で東京大学が進めるFSI（Future Society Initiative）活動を加速させるものであり、SDGsとの親和性が特徴」

2. 充当事業

- 東京大学FSI事業
 - 「ダイバシティー & インクルージョン拠点等の整備」
 - 「海洋生物研究教育拠点構想」

3. 償還計画

- 既に確保が出来ている業務上の余裕金により償還する計画
（寄付金の資産運用の高度化による運用収入増分、土地・建物の高度活用による雑収入増分）

項目	第二回東京大学FSI債 債券概要	
債券格付け	AA+ (R&I) / AAA (JCR)	
年限	40年	
発行額	100億円	
条件決定日	2021年12月10日	
発行日	2021年12月22日	
償還日	2061年3月18日	
利率	0.853%	
第三者評価機関	株式会社日本格付研究所	
ソーシャルボンド・フレームワーク評価（※）	総合評価	Social1 (F)
	ソーシャル性評価	s1 (F)
	管理・運営・透明性評価	m1 (F)

※各評価はいずれも高い方からSocial1(F)~Social5(F)、s1(F)~s5(F)、m1(F)~m5(F)の5段階

基本理念とその実現に向けた3つの視点(Perspective)

- 2021年4月に藤井総長が就任し、学知を生みだし、つなぎ、深める拠点として、問いを立てる基礎力をはぐくみ、卓越性と包摂性を実現するため、東京大学が目指す理念と基本方針を示す「UTokyo Compass」を公表。「社会との対話と共感」をさまざまな場面で追求することに加え、3つの視点(Perspective)による理念の実現と、その好循環を生み出すための経営力確立を目指すことを示した

UTokyo Compassの基本理念

対話から
創造へ

多様性と
包摂性

世界の誰もが
来たくなる大学

学術での卓越を実現するための真理への探究心と学問の自由に根ざす研究、地球的な視野、高い倫理、粘り強い実践力、問いを立てる力を育む教育、多様な人間が集まり課題の発見と共有と解決に取り組む場としての大学、地球規模の課題の解決へ貢献し世界の公共を担うために創造的に自らの実践をデザインインクルーシブで自由なより良い未来社会の創造を目指す

理念の実現に向けた3つの視点 (Perspective)

Perspective1: 知をきわめる



- 真理を探究、多様な学知を創出
- 公共性へ奉仕、透明性の確保
- 知の接続機能を持つ拠点、文理の垣根を超えた連携
- 好奇心やひらめきを駆動力に、対話を基礎に

Perspective2: 人をはぐくむ



- 未来を築く卓越した人材を輩出
- 共感形成の能力を身につける教育
- 開かれたネットワークの中でしなやかな対話力を
- 学生との対話や学生の参加を促進

Perspective3: 場をつくる



- 多声性を活力とする場に、対話で包摂
- 構成員の多様性を重視、デジタル・インクルーシブキャンパスを実現
- 自ら起点となって社会との架け橋を創る
- 公共的な存在意義や機能への信頼と支持

3つの視点が好循環するための基盤

自律的で創造的な大学活動のための経営力の確立

- 新たな時代の大学という法人の自律性・創造性のあり方を検討
- 国から付託された従来の役割から踏み出すための、財務・人事・制度などととまらない、学問の裾野をひろげていくために必要な不断の改革や進化
- 大学の多様な教育研究活動と社会からの支持・支援を広げる「公共を担う組織体」としての成長モデルの構築



「UTokyo Compass」の20の目標



- 「UTokyo Compass」では、3つの視点(Perspective)と経営力確立に関する目標を設定し、具体的な行動計画の推進により達成を目指す



経営力の確立

1. 「自律的で創造的な大学モデル」の構築
2. 持続可能な組織体としての経営戦略の創出と大学の機能拡張
3. 大学が果たす役割についての支持と共感の増進



知をきわめる

4. 地球規模の課題解決への取組
5. 多様な学術の振興
6. 卓越した学知の構築
7. 産学協創による価値創造
8. 責任ある研究



人をはぐくむ

9. 包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ教育
10. 国際感覚をはぐくむ教育
11. 学部教育：専門性に加えて幅広い教養と高い倫理性を有する人材の育成
12. 大学院教育：高い専門性と実践力を備え次世代の課題に取り組む人材の育成
13. 若手研究者の育成
14. 高度な専門性と創造性を有する職員の育成
15. 大学と社会をつなぐ双方向リカレント教育の実施



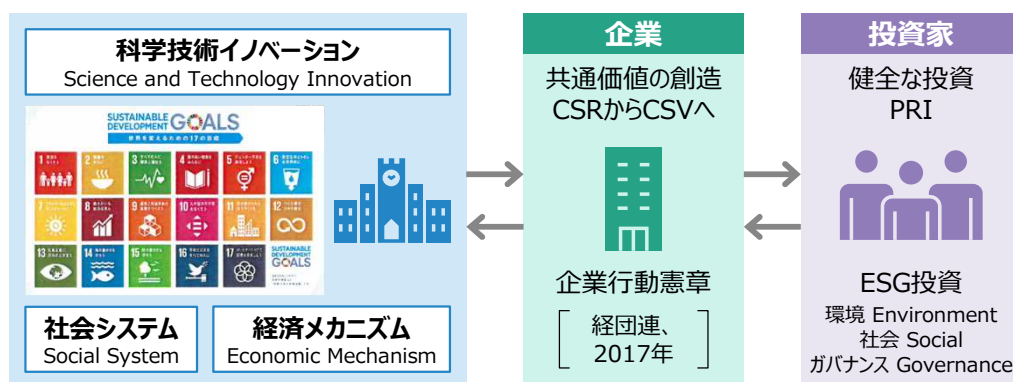
場をつくる

16. 安心して活動でき世界の誰もが来たくなるキャンパス
17. 教育研究活動の支援
18. サイバー空間に広がるキャンパス
19. 社会への場の広がり
20. 国際的な場の広がり

未来社会協創推進（FSI）本部

- 2017年7月、総長を本部長とする「未来社会協創（FSI：Future Society Initiative）推進本部」を設置
- その目的は、大学の使命である教育と研究に加えて、複雑化する社会課題の解決を新たなミッションと認識し、文理を超えた「知」を駆使して、より良い未来社会の構築に向けた協創を効果的に推進することで、東京大学が社会変革を駆動すること
- FSI事業が目指す方向性は、国連が2030年に向けて採択したSDGs（持続可能な開発目標）の理念と合致。SDGsに貢献する様々な研究教育プロジェクトをFSI本部が司令塔として取り纏め、分野の壁を越えて、自然な相乗効果が見込めるプロジェクト間の協働を進めることを目指す

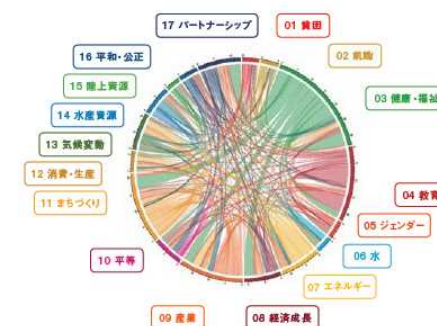
東京大学が取り組む未来社会協創



主な取組

SDGs登録プロジェクト

- FSI推進本部では、SDGsに貢献する研究プロジェクトを登録
- 2023年9月1日現在、登録数は208プロジェクトとなる
- プロジェクトにはそれぞれ、17の持続可能な開発目標（SDGs）からメイン目標として研究者が選ぶ一つの目標があり、同時に一以上の他の目標がサブ目標として設定されている



主な取組

未来社会協創基金（FSI基金）

- FSI事業の取組を支えるための基金として設立
- 基金に寄せられた寄附は、インクルーシブなより良い未来社会を協創するために重要であると東京大学が総合的に判断するプロジェクトに活用

未来社会協創の具体例（三菱地所との産学協創協定締結）

『本丸イノベーションオーバル』形成を目指し「MEC-UTokyo Lab」を開始

- ・ポストコロナを見据えた次世代のまちづくり研究と実践
- ・スタートアップの成長を加速するエコシステム形成
- ・スマートシティの深化
- ・未来を創る人材育成



左：三菱地所 執行役社長（当時） 吉田淳一
右：東京大学 総長 藤井輝夫

未来社会協創基金（FSI基金）



- 東京大学は、ICMA（国際資本市場協会）が定めるソーシャルボンド原則の4つの核となる要素に基づきソーシャルボンド・フレームワークを策定。本フレームワークについて、2021年11月に外部評価機関である株式会社日本格付研究所（JCR）からソーシャルボンド原則2021に適合している旨の第三者評価を取得しました

ソーシャルボンド・フレームワークの概要

1.

調達資金の使途

- 以下の適格基準を満たす新規のプロジェクトに充当することを想定
 - 知識集約型社会及びSDGsに資する教育・研究に係る投資
 - 2020年の「国立大学法人法施行令の一部を改正する政令」で新設された同施行令第八条第四号に該当するもの
 - 東京大学のFSI構想から導き出された「東京大学FSI事業」として特定されたもの
(事業内容)
 - 東京大学の行動指針である「UTokyo Compass」に示された、世界最高水準の教育・研究を目指す総合大学としての環境の整備
 - ◆ 知の接続機能をもつ拠点としての役割を果たすための先端的研究施設設備の整備
 - ◆ 未来を築く卓越した人材を輩出し、全ての構成員が安心して活動できる多様性と包摂性を合わせもった「誰もが来たくなる大学」にふさわしいキャンパス実現に向けた環境整備
- (対象となる人々)
- 東京大学の研究者及び学生に加え、東京大学が行う研究の成果によって実現するSDGs達成への貢献によって裨益する人々

2.

選定基準とプロセス

- ソーシャル適格プロジェクトは、FSI本部が候補プロジェクトを選定し、当該案について予算委員会、経営協議会で審議の上、役員会で決議
- 対象プロジェクトの選定にあたっては、あらかじめ定めた適格基準を満たしているか否かを確認

3.

資金管理

- ソーシャルボンドによる調達資金は、東京大学の財務会計システムにより入出金管理を行う。財務担当者がシステムに入力し、経理責任者が承認する体制である
- ソーシャルボンドによる資金充当状況に係る帳簿は、財務会計システムより年に一回出力した上で永年保管の予定である
- 東京大学では月次の財務状況を経理責任者から財務部長に報告している。また、ソーシャルボンドの入出金を含む財務状況全般について、年に一度、監査法人による会計監査を受けることとなっている
- ソーシャルボンドによる調達資金の未充当金は、現金または現金同等物にて管理・運用する予定である

4.

レポートニング

- (1) 資金の充当状況に係るレポートニング
 - ◆ ① 充当したプロジェクトのリスト
 - ◆ ② 充当金額
 - ◆ ③ 未充当残高
- (2) インパクト・レポートニング
 - ◆ <アウトプット指標> 対象となるプロジェクトにおいて取得した土地、設置・整備した施設、設置した設備
 - ◆ <アウトカム指標> ソーシャルプロジェクトに関与する研究者数及び学生数
 - ◆ <アウトカム指標> ソーシャルプロジェクトに係る学術論文数及び単位取得数
 - ◆ <インパクト（定性目標）> 知識集約型社会及びSDGsへの貢献

資金の充当状況に係るレポーティング



- 東京大学FSI債（ソーシャルボンド）により調達した資金は、以下のプロジェクトに充当されます

		Project① 海洋生物研究教育拠点構想	Project② 土地の取得	未充当残高
第二回	充当金額 パーセンテージ	20億円 20%	23億円 23%	57億円 57%

※その他想定 Project

- ダイバーシティ&インクルージョン拠点
 - GX・DXの推進等によるキャンパス環境の整備
-
- 未充当残高については、現金または現金同等物にて適切に管理・運用しています

インパクト・レポーター① (海洋生物研究教育拠点構想)

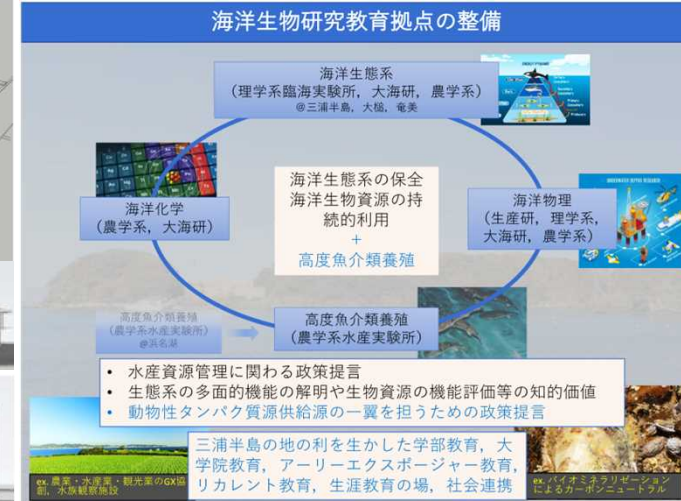
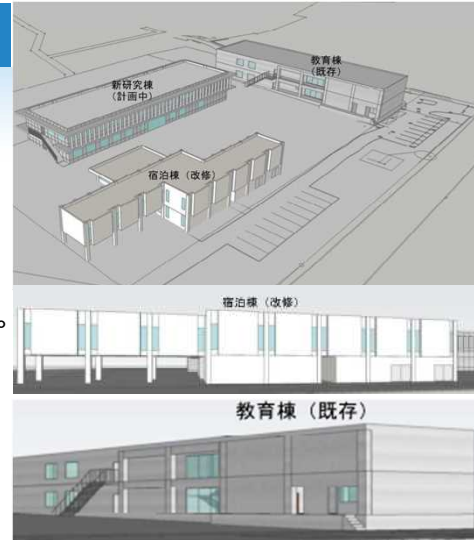


- 東京大学は未来社会づくりの中心となる国際的かつ卓越した研究教育基盤の構築します

20億円

海洋生物研究教育拠点の整備計画 (2026年運用開始予定)

- 「海洋生物」をキーワードとした新たな海洋生物研究・教育を加速する神奈川県三浦市三崎町に、研究教育のための拠点を構築する。
- 海洋生物研究教育拠点の整備は、持続的養殖・海洋生態系の理解・海洋生物資源管理等、海洋関連科学の発展に寄与することを目的としている。
- 農学生命科学研究科附属水産実験所・理学系研究科附属三崎臨海実験所・大気海洋研究所・生産技術研究所など学内外機関との連携強化を図る。
- 現在、昭和51年に竣工した宿泊棟の全面改修を計画している。この宿泊棟は外部にひび割れが多くみられ、内部には断熱材が施工されていない等の問題がある。既存建物を生かしつつ、改修費用を抑えてニーズに合った施設にする。(宿泊室を増やしてプライバシーに配慮、居室の断熱性能を向上させるため複層サッシに改修、エントランスにスロープを新設してバリアフリー化など)



インパクト・レポーター

アウトプット指標

海洋生物研究教育拠点 移転スケジュール	
～2023.9	学内審議等
～2024.3	設計等準備期間
～2024.7	建設整備期間 (宿泊施設の改修工事)
～2025.8	建設整備期間 (研究棟、飼育施設の整備)
2025.9～ 2026.3	移転作業等
2026.4～	運用スタート

アウトカム指標

研究
<ul style="list-style-type: none"> ・生態発生の学的研究の展開 ・三浦真珠プロジェクトを活用した環境保全と地方創成 ・亜寒帯から温帯、亜熱帯生態系までの総合理解
教育
<ul style="list-style-type: none"> ・分野を超えて活躍できる人材の育成 ・地域連携による次世代人材の育成 ・全国的な共同研究の受入 ・教養学部体験型のプログラム

インパクト指標

✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元



【社会還元想定事例】

- ・漁業者や周辺地域との連携による地方創生
- ・自然災害の影響を受けにくい養殖技術の開発
- ・海洋教育・学術成果の発信

※現在進行部分は赤文字、今後着手予定部分は黒文字で記載

インパクト・レポーティング②（土地の取得）



- 東京大学は国から有償で借りていた土地を取得し、リアルな交流の場の価値を高める環境整備など、キャンパス整備を促進します

23億円

土地の取得

- 駒場ロッジは東京大学で研究・教育に従事する留学生のための宿泊施設。
- 本館、B、C、D棟から構成されており、駒場Ⅱキャンパスと接している。
- この駒場ロッジが立地する土地（赤枠部分）をFSI債により取得し、駒場Ⅲキャンパスとした。
- 借地を購入して本学所有地となったことで、老朽化した建物の改築整備等を含めた施設活用が可能となった。
- 今後の整備計画は「UTokyo Compass」で掲げた目標を達成するため学内ワーキング等で決定していく。

駒場Ⅲキャンパスの土地を取得



駒場Ⅲキャンパス全景

インパクト・レポーティング

アウトプット指標

駒場Ⅲキャンパス 未取得地	取得済
---------------	-----

アウトカム指標

- ✓ 当該土地に新たに建設される施設について
- 土地の有効活用による国際ショナルロッジの改築

インパクト指標

✓ SDGsへの貢献、研究成果の社会還元



【社会還元想定事例】

- 多様性に富んだ背景をもつ者同士が共に生活することで、包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ
- 国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成
- キャンパス周辺地域との対話による地域社会活動への貢献



駒場ロッジ本館（外観、ホール、居室）

お問い合わせ先

国立大学法人東京大学
財務部経理課資金調達チーム

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3-1
TEL : 03-5841-0307
FAX : 03-5841-2109
e-mail : shikinoutatsu.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
<https://www.u-tokyo.ac.jp>

